

授業科目名： ワーク・ライフ・ バランス論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：澤田真由美 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)	学校コンサルティング		
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 教員の長時間労働の実態と解消の取り組みについて関心を高める</p> <p>(2) 学校におけるワーク・ライフ・バランスが教育の質を上げることができる</p> <p>(3) 学校におけるワーク・ライフ・バランスの実現の道筋を説明できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本の教員の長時間労働の実態を知り課題意識を高めたのち、ワーク・ライフ・バランス実現の事例や手法を知った上で、教員個人から組織まで様々な階層ごとにできる取り組みや実現への道筋を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本の教員の勤務実態について知る</p> <p>第2回：他業種や諸外国の働き方について知る</p> <p>第3回：学校における働き方見直しに関する国の動きを知る</p> <p>第4回：学校における働き方見直しの必要性について考える①このままで疲弊し続けた場合</p> <p>第5回：学校における働き方見直しの必要性について考える②見直して仕事と私生活の好循環</p>			

を生んだ場合

第6回：全国の学校における働き方見直しの事例を知る

第7回：ワーク・ライフ・バランスが教育の質を上げることを理解する

第8回：各学校ごとに抱える課題が違ってそれを解決していく道筋があることを知る

第9回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現への課題を考察する①学校内部の抱える課題

第10回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現への課題を考察する②学校を取り巻く課題

第11回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けて教員個人でできることを考える

第12回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けて学年や小チームでできることと知る

第13回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けて学校全体でできることを知る

第14回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けて地域・保護者と協働できることを知る

第15回：学校におけるワーク・ライフ・バランス実現に向けて教育委員会や国とできることを知る

定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる

テキスト

- (1) 妹尾昌俊（2017）『「先生が忙しすぎる」をあきらめない』教育開発研究所
- (2) 澤田真由美（2020）『人生が変わる！先生のための仕事革命ワークブック！』学陽書房

参考書・参考資料等

- (1) 井伊義人『多様性を活かす教育を考える七つのヒント』共同文化社
- (2) 日本標準教育研究所 編集『先生は忙しいけれど。多忙、その課題と改善』日本標準
- (3) 大阪教育文化センター教師の多忙化調査研究会 編『教師の多忙化とバーンアウト』京都・法政出版
- (4) 長沼豊『部活動の不思議を語り合おう』ひつじ書房
- (5) グレッグ・マキューン『エッセンシャル思考 最少の時間で成果を最大にする』かんき出版
- (6) ハイラム・W・スミス『TQ—心の安らぎを発見する時間管理の探究』キングベアー出版
- (7) 小室 淑恵『結果を出して定時に帰る時間術』sasaeru 文庫
- (8) 妹尾昌俊『変わる学校、変わらない学校』学事出版

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。